

地方創生関係交付金 ～事業・KPI 検証資料～

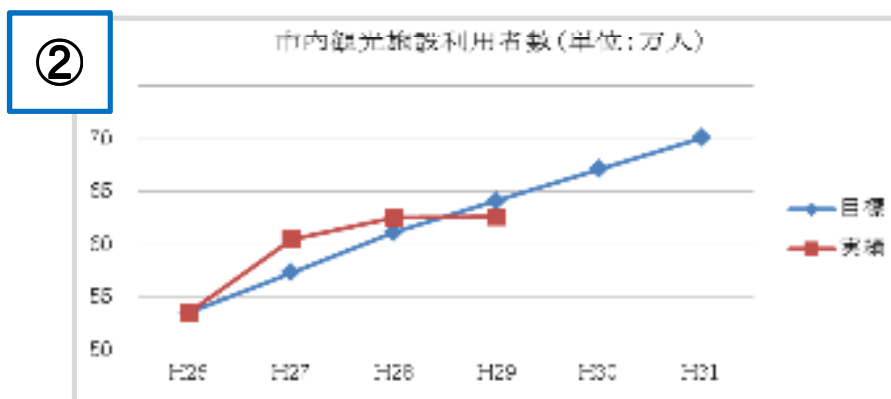
目次

1	地方創生関係交付金の概要	・・・	3
2	先行型交付金 [平成28年度検証委員会にて検証済み]		
	(1) 定住促進事業	・・・	4
	(2) 「話せる英語教育」推進事業	・・・	5
	(3) ハーブ産業推進事業	・・・	6
	(4) マルシェによる商店街活性化事業	・・・	7
	(5) 住宅リフォーム促進事業	・・・	8
3	加速化交付金 [平成29年度検証委員会にて検証済み]		
	(1) 地場産業の振興事業	・・・	9
	(2) 市内観光の推進による市街地活性化事業	・・・	15
4	推進交付金		
	(1) 三木市生涯活躍のまちづくり事業	・・・	21
	(2) ゴルフを核としたまちの活性化	・・・	27
5	拠点整備交付金	・・・	34

KPI項目の見方

市内観光施設利用者数

① 区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30	H31年度
目標	—	57.2万人	61万人	64万人	67万人	70万人
実績	53.4万人 (H26)	60.4万人 (106%)	62.4万人 (102%)	62.5万人 (98%)		



③

KPI判定(H29年度)

○

④

コメント

利用者数は、ほぼ横ばいであり、国体会場になるなどの特需により急増する。

① KPI推移表

三木市創生計画(以下、「創生計画」という。)で定めた各KPIの目標値及び実績値の推移を表で示しています。

- 1 目標欄について… 毎年度の目標値は、創生計画に定めたH31年度の目標値を基準に、各年度に按分して設定した参考値。
- 2 実績欄について… 毎年度の実績値及び、実績値の目標値に対する達成率を実績値の下括弧内に記載。

なお、創生計画で定めたKPIの対象期間はH27～H31年度が基本となりますが、地方創生関係交付金や地域再生計画が認定された年度の違いなどにより、KPIの対象期間が異なる場合があります。現時点では、H27～H31年度、H28～H32年度の2種類があり、それぞれ図表の色を変えて表示しています。

青色の表・・・KPIの対象期間が「H27～H31年度」のもの。

緑色の表・・・KPIの対象期間が「H28～H32年度」のもの。

戸建住宅への移住世帯数 総務省が公表している戸建住宅の移住世帯数（H27年度の移住世帯数を基準とし、相対値を比較する日算）

区分	目標設定の 年度(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
日産		2世帯 (転入世帯 △20世帯)	10世帯 (転入世帯 △17世帯)	30世帯 (転入世帯 △5世帯)	60世帯 (転入世帯 △35世帯)	100世帯 (転入世帯 △73世帯)
実績	H27 (転出入差 △27世帯)	7世帯 (転出入差 △60世帯)	14世帯 (転出入差 △75世帯)			

桃色の欄は、各交付金の効果検証の対象年度

② KPI推移グラフ

KPI推移表に示した各年度の目標値及び実績値を線グラフ又は棒グラフで示しています。

③ KPI判定欄の判例

各年度の目標値に対する実績値の評価を次の評価記号を用いて示しています。

- ◎・・・目標を上回った
- ・・・目標値を達成した（目標値と同程度）
- △・・・目標値に若干及ばなかった（達成率が概ね8割程度）
- ×・・・目標値を著しく下回った
- ・・・実績値の公表時期が未到来等で判定が不可能

なお、判定年度はH28年度が基本となりますが、先行型交付金にかかる事業及び国勢調査※の結果を実績値としている事業については、H27年度を判定年度として設定しています。

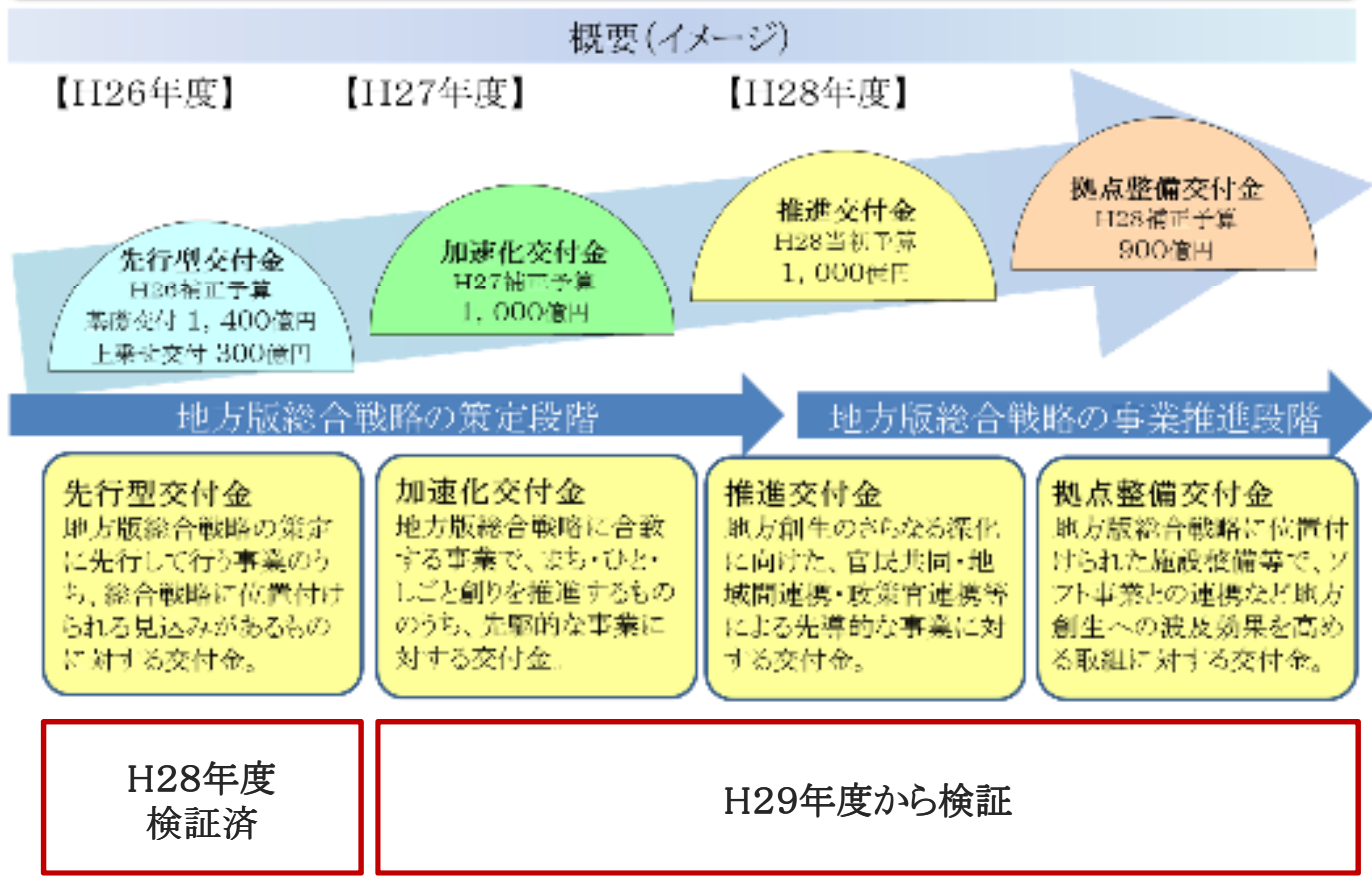
※国勢調査は5年ごとに行われており、H27年に第20回調査が実施され、次回調査（第21回）はH32年を予定。

④ コメント欄

実績値の推移状況や事業を取り巻く背景の状況等についてコメントを記載しています。

1 地方創生関係交付金の概要～地方創生における国の財政支援～

国は地方創生を推進するため、平成26年度から「先行型交付金」、「加速化交付金」、「推進交付金」、「拠点整備交付金」の4つの交付金を整備し、自主的・主体的な取組、先導的な取組、従来の縦割り事業を超えた取組等を中心に地方自治体を支援しています。



2 先行型交付金 | H26年度3月補正予算/H27年度実施/H28年度検証

(1) 定住促進事業

(H26年度からの継続事業)

H28年度検証済

交付金充当額(実績) : 2,152万円

40歳未満の夫婦が新たに市内に住宅を建築(取得)する際に課税される固定資産税及び都市計画税の一部に対し助成。

課題 20～30代を中心とした若者世帯の人口流出

取組方針 住宅建築(取得)に対して助成を行い、移住・定住を促進

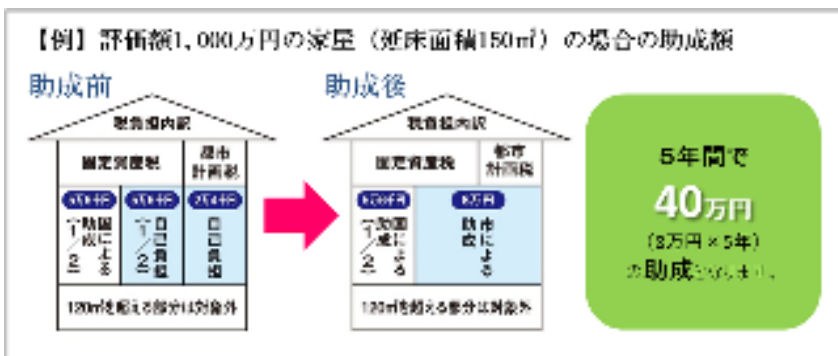
取組内容 (対象)夫婦いずれかが40歳未満で、住宅を新築又は購入された方(助成期間)一般住宅の場合3年間長期優良住宅の場合5年間

※H29年度 地区別集計表

地区名	件数	交付決定額(千円)
三木	160	12,541
自由が丘	115	9,177
緑が丘	75	5,973
別所	43	3,167
青山	30	2,462
その他	42	2,700
合計	465	36,020

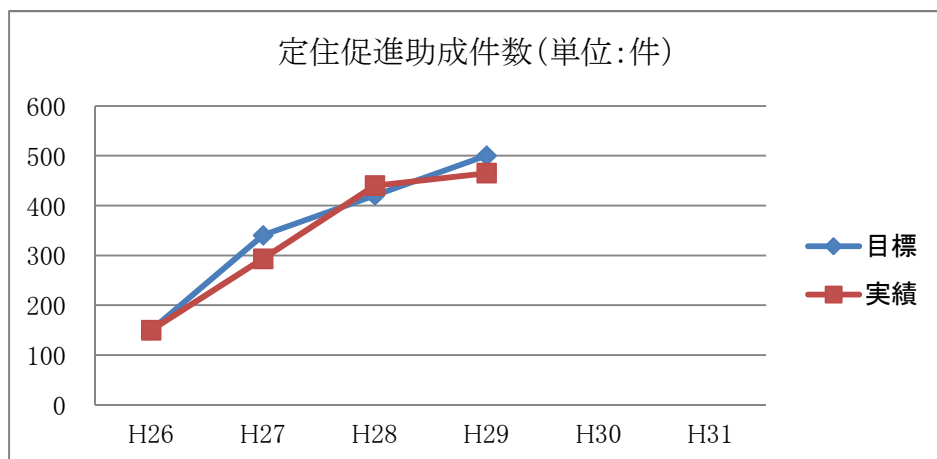
新たな動き

H29年度から、転入者に対する
 ・新築住宅取得助成
 ・リフォーム助成
 を追加した。



定住促進助成件数

区分	目標設定の起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	340件	420件	500件	—	—
実績	150件(H26)	293件(86%)	440件(105%)	465件(93%)	※2019年建築分をもって事業終了を予定。	



KPI判定(H29年度)

△

コメント

- ・参考目標値対比で93%の達成率。
- ・件数は増加基調で地方創生に効果あり。

(2)「話せる英語教育」推進事業

(H27年度からの新規事業)

H28年度検証済

交付金充当額(実績) : 1,854万円

英語教育を小学1年生から導入し、中学3年生までの9年間で英語による日常会話ができるようカリキュラムを作成し、グローバル社会に対応した「ひとづくり」を実施。

課題 国際化に対応した英語教育の必要性

取組方針 「聞く」、「話す」を中心とした英語教育に取り組み、ALTや市民ボランティアと連携し、児童生徒が英語に慣れ親しめる環境をつくる。

取組内容

- ・ 英語教育の時間増加
- ・ ALTの増員
- ・ 夏休みイングリッシュキャンプ
英語で歌やゲームをしたり、昼食やオリエンテーションを行い、ネイティブスピーカーとふれあう機会を設ける。



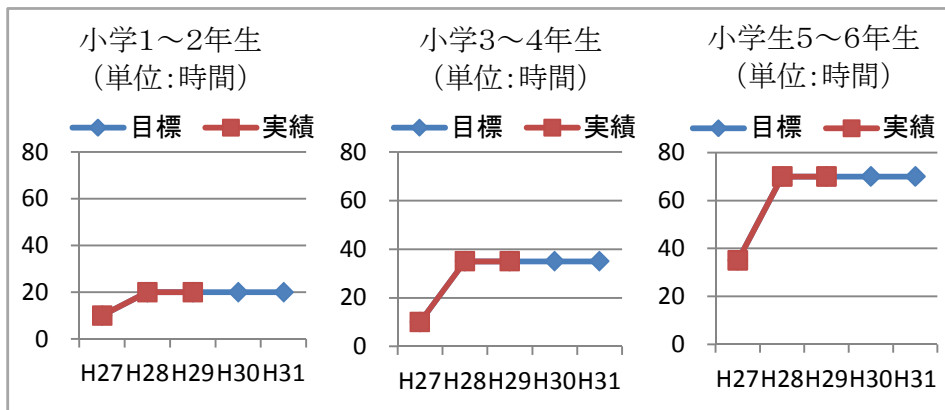
英語で「だるまさんが転んだ」を行っている様子。

内容	H27	H28	H29
夏休みイングリッシュキャンプ(小1~3)	80人	60人	56人
夏休みイングリッシュキャンプ(小4~6)		60人	58人

小学生の英語教育時間

募集人数は共に60人

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	小1-2 10時間	小1-2 20時間	小1-2 20時間	小1-2 20時間	小1-2 20時間
		小3-4 10時間	小3-4 35時間	小3-4 35時間	小3-4 35時間	小3-4 35時間
		小5-6 35時間	小5-6 70時間	小5-6 70時間	小5-6 70時間	小5-6 70時間
実績	—	小1-2 10時間	小1-2 20時間	小1-2 20時間		
		小3-4 10時間	小3-4 35時間	小3-4 35時間		
		小5-6 35時間	小5-6 70時間	小5-6 70時間		



KPI判定(H29年度)



コメント

- ・ 目標どおりの実績。
- ・ キャンプは好評で事業継続方針。
- ・ 国の目標より高い目標を設定している。

(3)ハーブ産業推進事業

(H23年度からの継続事業)

H28年度検証済

交付金充当額(実績) : 300万円

ハーブによる農業の6次産業化の推進により、三木の新たな特産品として、全国に発信するとともに、別所ゆめ街道を中心とした地域活性化を進める。

課題

- ・農業の6次産業化
- ・新たな三木のブランドづくりの必要性

取組方針

ハーブの6次産業化に取り組む「三木市ハーブ産業推進協議会」を支援するとともに、ハーブを中心とした新たなブランドづくりに挑戦。

取組内容

同協議会への支援のほか、観光施設や物産展でのPRやふるさと納税での記念品として取り上げ支援。



ふるさと納税の記念品(イメージ)
商品例 : ハーブティー
パウンドケーキ
バジルカレー ほか

三木市ハーブ産業推進協議会について

沿革 ・ハーブを栽培する地元農家グループとそのハーブを加工するボランティアグループ「ハーブ工房みきヴェルデ」を統合し、H24年4月に結成。

・H27年11月に「株式会社みきヴェルデ」として法人化。

内容 ハーブの栽培から加工、販売までを行う6次産業化に取り組む。



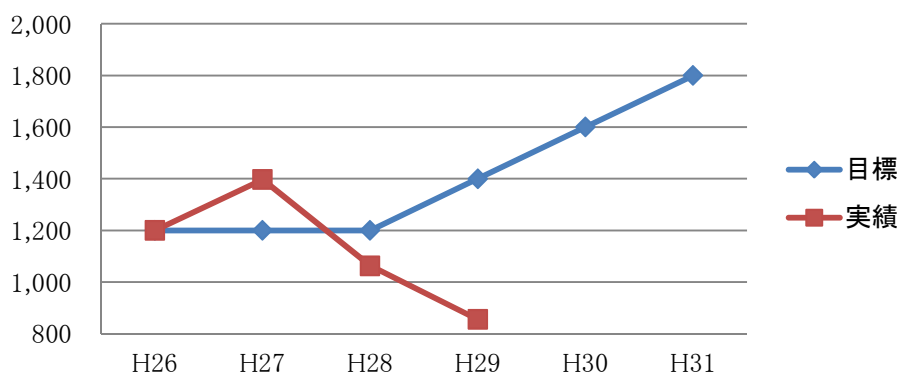
新たな動き

H30年4月に「別所ゆめ街道飲食物産館」をオープン。

ハーブ産業化推進による販売額

区分	目標設定の起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	1,200万円	1,200万円	1,400万円	1,600万円	1,800万円
実績	1,200万円(H26)	1,397万円(116%)	1,063万円(89%)	855万円(61%)		

ハーブ産業化推進による販売額(単位:万円)



KPI判定(H29年度)

×

コメント

みきヴェルデの運営する店舗が閉店したため、販売額が減少した。

(4) マルシェによる商店街活性化事業

(H26年度からの継続事業) **H28年度検証済**

交付金充当額(実績) : 300万円

人と人のコミュニティの場としてマルシェ(定期市)を開催し、商店街の活性化やまちの賑わいを創出する。

課題 大型店やネット通販の進出等で、薄れゆく商店街のにぎわいを取り戻す

取組方針 マルシェ(定期市)を開催し、まちの人がふれあう機会を創るとともに、商店街のにぎわいを創出

取組内容 下記のマルシェ開催を支援
・みき元気マルシェ(明盛商店街)

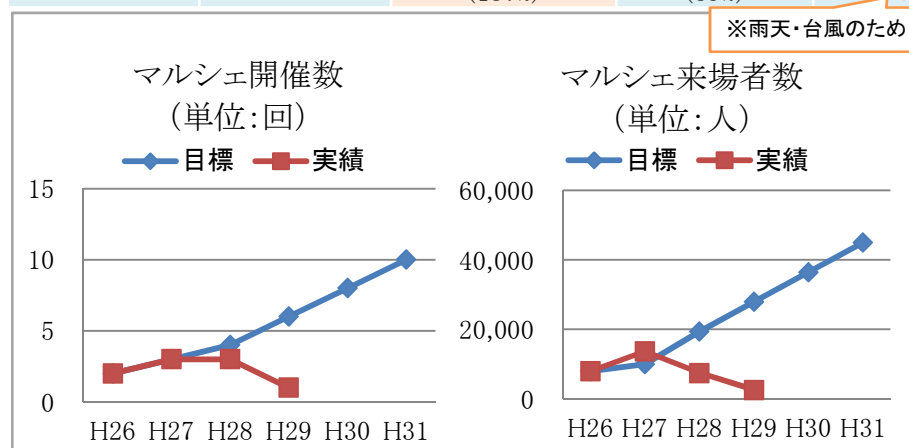


新たな動き H28年度から、従来から地元住民や団体が主体となり実施されてきた「レトロヂ」、「ナメラン」、「ハロウィン」など商店街を中心に開催されているイベントへの支援も開始。

※「レトロヂ」、「ナメラン」、「ハロウィン」については、16ページで紹介。

マルシェ開催数・来場者数

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	3回 10,000人	4回 19,400人	6回 27,933人	8回 36,466人	10回 45,000人
実績	2回 8,000人 (H26)	3回 (100%) 13,700人 (137%)	3回 (75%) 7,480人 (39%)	1回 (17%) 2,600人 (9%)	(事業終了) —	—



KPI判定(H29年度)

×

コメント

・天候に恵まれず、開催数、来場者数共に目標を大きく下回った。
・集客効果が低く、また、商店街からの協力も得られなくなったため、H30年度以降については事業を終了する。

(5)住宅リフォーム促進事業

H25年度からの継続事業) **H28年度検証済**

交付金充当額(実績) : 1,100万円

市民が市内業者を活用した住宅リフォーム工事を行った場合に、その費用の一部を助成することで、市内中小企業の振興を図る。

(表1)取組実績

年度	件数	助成交付額 (千円)
H25	627	49,968
H26	438	35,962
H27	170	14,989
H28	92	7,742
H29	80	7,357
合計	1,407	116,018

課題 市内中小企業の振興

取組方針 住宅リフォームについて助成メニューを整備

取組内容 (対象工事) 市民が市内業者に発注した
住宅リフォーム工事(20万円以上)
(助成額) 費用の10分の1(上限額10万円)

新たな動き

H29年度から転入者に対し助成を追加

新築住宅取得助成

申請:41件 交付額:10,250千円

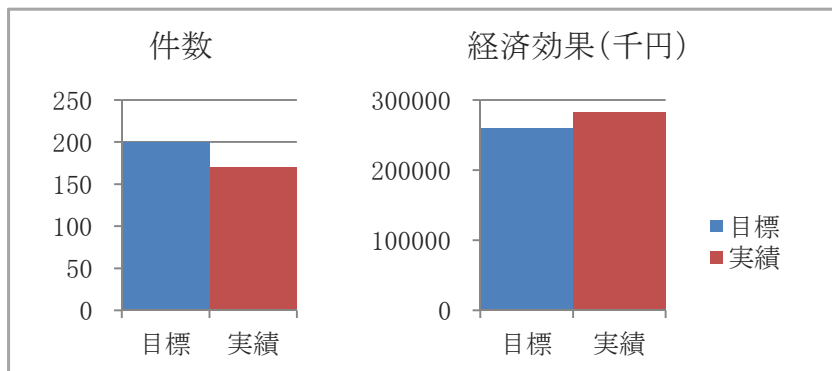
転入者に対するリフォーム助成

申請: 0件 交付額: 0千円(H30年度から事業廃止)

住宅リフォーム促進助成件数・経済効果(※)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	200件 260,000千円				
実績	438件 580,442千円	170件 (85%) 281,947千円 (108%)	H25、26年度は全ての申込みを助成対象としていたが、平成27年度から上限を設定。そのため平成28年以降については、創生計画のなかでの目標設定をしていない。			

※経済効果は、助成した工事の費用総額。



KPI判定(H29年度)

—

コメント

検証年度の実績値が確定していないため、次回以降効果検証を実施。

※単年度のKPI目標につき、棒グラフで表記。

3 加速化交付金 | H27年度3月補正予算/H28年度実施/H29年度検証

(1)地場産業の振興事業 ①金物振興

H29年度検証済

H28年度総事業費 : 6,677万円

三木金物のブランド力を高め、しごとの創出、担い手の育成、若者の定住につなげる。

課題

- ・三木金物の強みを活かした効果的な情報発信を行う人や仕組みが不十分。
- ・伝統的な鋸(のこぎり)、鑿(のみ)、鉋(かんな)等の大工道具の市場開拓。

取組方針

三木金物のブランドづくりをプロデュースするトータルコーディネーターを選任するとともに、海外への市場開拓を支援。

取組内容

主な取組は下記の通り。

三木金物トータルコーディネーター(H28年度～)



- ・日本観光振興協会総合調査研究所の丁野朗(ちょうのあきら)特別研究員(H28.12月選任)
- ・市内の包丁メーカーによる女性をターゲットにデザイン・機能性を重視した三木金物を使用する「キッチンプロジェクト(料理教室)」の開催に向けて協議を進めた。
- ・世界の鍛冶屋が一度は訪れてみたい金物の聖地となるために「かじやツアーリズム」の開催をめざし、市内の金物製造メーカーを対象に工場見学が可能な企業を調査した。

三木金物海外進出戦略

(H28年度)

- ・米ウッドクラフト、台湾五金展(8社参加)に出展。
- ・独アンビエンテへの視察。



(H29年度)

- ・台湾五金展(15社が参加)及び独ケルンの見本市に8社出展。



○世界各地の展示会を調査し、各地のトレンドについて情報収集を行いながら新製品の開発や新たな販路開拓につなげていく。

新製品開発推進事業

三木金物ニューハードウェア賞の認定により、金物新製品の研究意識の高揚を図り、産業振興につなげる。認定製品には助成金を交付。



三木金物博覧会 鍛冶でっせ!

三木金物の展示会。親子体験やゲームなど体験やふれあいを重視した各種イベントを集約し三木金物に親しめる場所づくりを創出。



H29年度 49事業所が参加

H30年度 47事業所が参加

関連内容 三木金物まつり

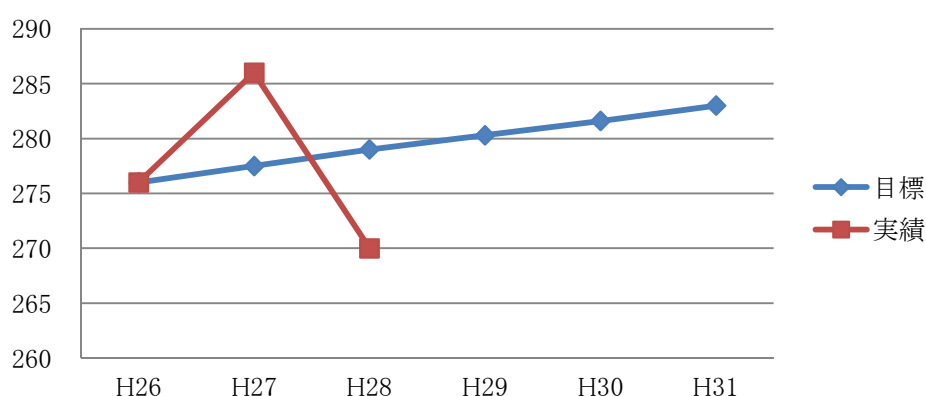
毎年11月の第1土・日曜日に市役所前広場をメイン会場に、県内外から多くの来場者(H29年度 162千人)で賑わう。金物びっくり市をはじめ、金物古式鍛錬の実演、農業祭など盛りだくさんの内容で開催する三木市の一大イベント。



金物製品出荷額

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度 (H27.1~12月)	H28年度 (H28.1~12月)	H29年度 (H29.1~12月)	H30年度 (H30.1~12月)	H31年度 (H31.1~12月)
目標	—	277.4億円	278.8億円	280.2億円	281.6億円	283億円
実績	276億円	286億円 (103%)	270億円 (97%)	平成31年9月 更新予定		

金物製品出荷額(単位:億円)



KPI判定(H29年度)



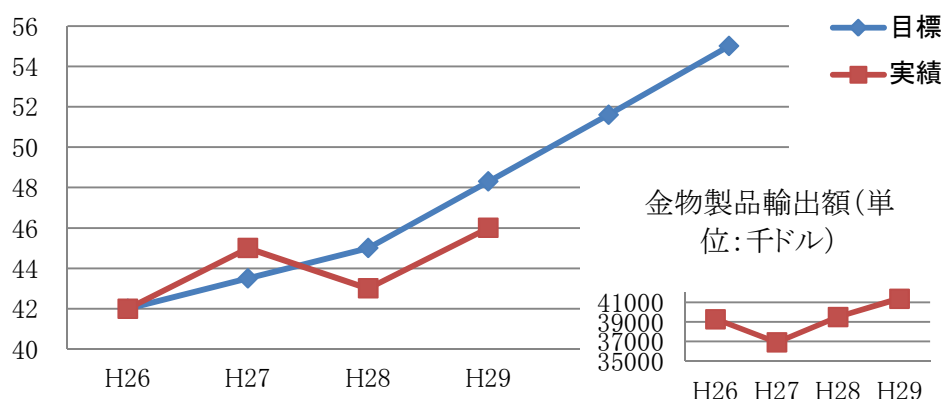
コメント

出荷額が落ち込んでいるが、対参考目標値では97%を達成している。

金物製品輸出額

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度 (H27.1~12月)	H28年度 (H28.1~12月)	H29年度 (H29.1~12月)	H30年度 (H30.1~12月)	H31年度 (H31.1~12月)
目標	—	43.5億円	45億円	48.3億円	51.6億円	55億円
実績	42億円 (H26)	45億円 (103%)	43億円 (96%)	46億円 (95%)		

金物製品輸出額(単位:億円)



KPI判定(H29年度)



コメント

手引き鋸等の製品の輸出が好調であり、輸出額の増加に貢献している。

【為替換算前の金額と為替レート】

H26 39,284千ドル(105.77円/\$)
 H27 36,918千ドル(121.08円/\$)
 H28 39,518千ドル(108.77円/\$)
 H29 41,371千ドル(111.19円/\$)

②山田錦振興

H29年度検証済

H28年度総事業費：1,441万円

山田錦の生産奨励を行うことにより、しごとの創出、担い手の育成、若者の定住につなげていく。

課題

- ・農業従事者の高齢化や後継者不足
- ・農業所得の向上など、持続可能でたくましい農業の創出

取組方針

- ・日本酒ブームによる山田錦の需要増加にあわせた生産奨励
- ・生産組織の法人化による経営基盤の強化

取組内容

主な取組は下記の通り。

山田錦奨励事業補助金

近年の需要の増加に対応するため、農業改良普及センター、市内農協とともに
枠外制度を
活用して
増産を推進。

年度	奨励金額 (単位：千円)
H26	9,307
H27	13,814
H28	13,893
H29	14,434

関連内容

インターナショナル・ワイン・チャレンジ (IWC)

- ・SAKE部門審査会開催。(神戸市-H28.5月)
- ・三木市の稲見酒造「葵鶴 大吟古酒」が古酒の部「銅賞」。
- ・外国から招かれた審査員の田植え体験を吉川町で実施。
(体験の様子を三木市YouTubeで公開)

山田錦まつり

- ・山田錦の館で開催されるまつり。高級酒の試飲等に加え、餅まきやキッズダンスなどイベントも充実。
- ・H28年度は神戸電鉄粟生線活性化協議会の企画「貸切列車&貸切バスで山田錦まつりへGO」と連携。居酒屋風に模様替えした貸切列車内で日本酒を楽しむ内容で市外からの誘客を促進。(来場者数:H28 9,900人、H29 10,000人)

山田錦80周年祭

- ・三木市産の山田錦を使う国内の酒蔵24社が集ったイベントを開催。試飲会のほか、山田錦の歴史や特性を伝えるセミナーも開催。

イノシシ等による農業被害対策

- ・イノシシやシカ等による農業被害が深刻化しており、H27年度に策定した「イノシシ撃退10年大作戦」を前倒して推進。

二十歳(ハタチ)に乾杯！二十歳の酒事業

- ・山田錦のPRのため、19歳の学生などが山田錦生産者や酒造会社社員と一緒に、田植えや稲刈りを体験し、完成した日本酒を成人式に味わうプロジェクト。

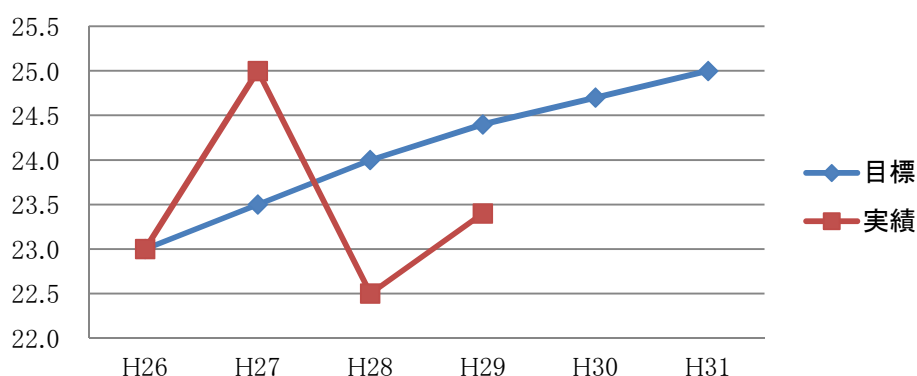


山田錦の出荷額

	H26	H27	H28	H29
出荷袋数 (袋/30kg)	181,350	201,795	182,953	188,009
単価(1袋あたり)	12,660円	12,478円	12,300円	12,451円

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	23.5億円	24億円	24.4億円	24.7億円	25億円
実績	23億円 (H26)	25億円 (106%)	22.5億円 (94%)	23.4億円 (96%)		

山田錦の出荷額(単位:億円)



KPI判定(H29年度)



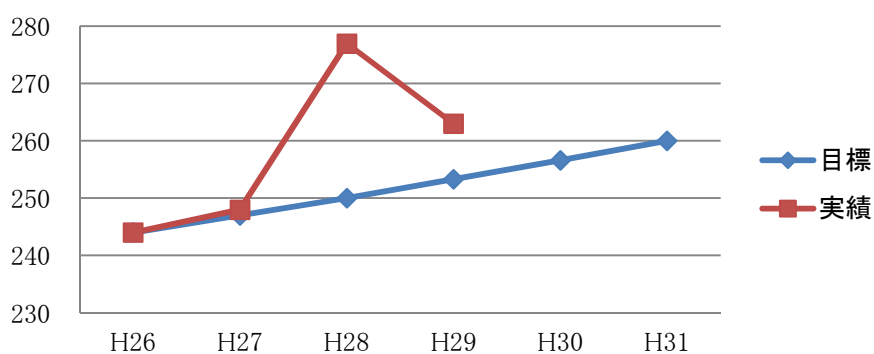
コメント

夏場に日照不足があったものの、H28年度に比べて天候に恵まれたため品質も改善されている。

農業平均所得(専業農家)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度 (H27.1~12)	H28年度 (H28.1~12)	H29年度 (H29.1~12)	H30年度 (H30.1~12)	H31年度 (H31.1~12)
目標	—	247万円	250万円	253.3万円	256.6万円	260万円
実績	244万円 (H26)	248万円 (100%)	277万円 (111%)	263万円 (104%)		
【参考】農業 所得者数	122人	139人	120人	129人		

農業平均所得(専業農家)(単位:万円)



KPI判定(H29年度)



コメント

一部の農家の農地集積化による所得押し上げが理由の一つ。減少は誤差の範囲である。

(注釈)ここでいう農業者とは、所得金額のうち農業所得が最も大きい者。

地方創生加速化交付金(地場産業振興事業関係)の執行状況

(H28年度)

※執行額から対象外経費を除いた額

交付金対象事業	交付金充当額(実績)※
三木金物コーディネーター設置事業	2,100千円
海外進出戦略事業	5,000千円
三木金物フェア事業	3,500千円
新製品・新素材開発推進事業	1,464千円
三木金物後継者育成事業	820千円
三木金物PR事業	7,000千円
金物大学事業	109千円
山田錦生産奨励	13,893千円
合計 33,886千円	



(2) 市内観光の推進による市街地活性化事業

H29年度検証済

H28年度総事業費：1億3,807万円

歴史、文化、自然など魅力あふれる観光資源に磨きをかけ、観光施設を「つなぐ」ことで、市内の観光周遊や商店街を中心とした経済の活性化を図る。

課題

- ・観光施設が点在し、「線」としてつながっていない。
- ・観光周遊の流れがゴルフや道の駅、大型公園に偏り、商店街を中心とした店舗など市内の経済効果に波及していない。

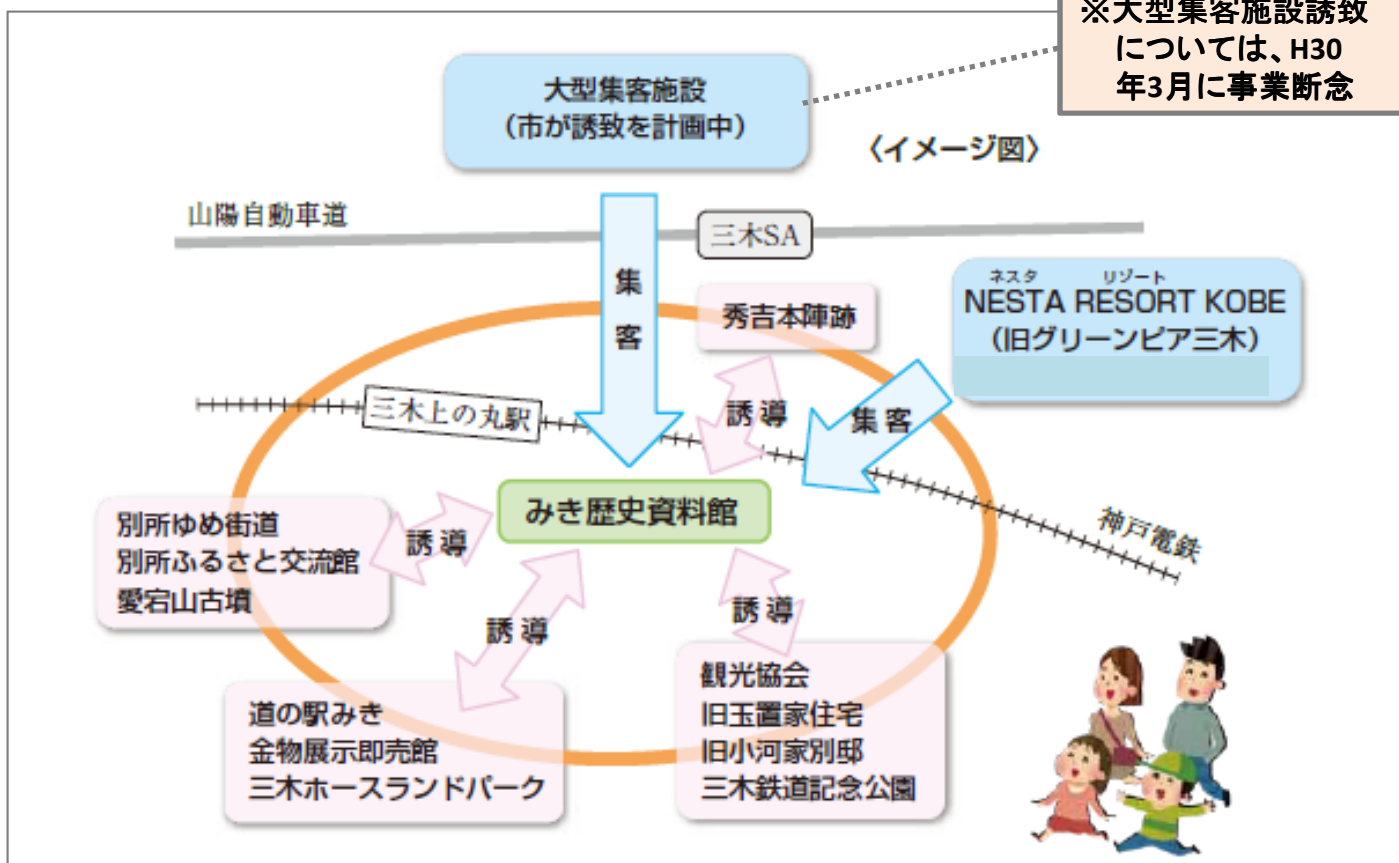
取組方針

- ・地域一体となって既存の観光資源(宝)を磨くことによる魅力向上
- ・各施設で活躍する人材の育成とロコミを生み出すしくみづくり
- ・観光施設等のネットワーク化による経済の好循環化

取組内容

- ・リニューアルした「みき歴史資料館」で、情報発信やまちおこしなど歴史、文化を活かしたまちのにぎわいづくりを推進。
- ・マルシェの開催支援など商店街を中心とした市街地の活性化。
- ・みっきいハイキングによる観光地周遊や、ネスタリゾート神戸における三木市観光ギャラリーなど、観光施設を「つなぐ」取組。

取組イメージ図(みき歴史資料館を拠点にしたイメージでの一例)



みき歴史資料館（H28年5月オープン）

歴史及び文化遺産に関する資料を収集、保管、展示するとともに「歴史・美術の杜みゅーじあむ」のインフォメーション施設として開館。常設展のほか企画展やまちの歴史を探索する歴史ウォークなどを開催。

市内の指定・登録文化財と三木合戦を落語家の笑福亭たまさんが紹介する動画を制作（H28.3）。館内休憩スペースにて放映。



各種イベント支援

三十路式

市にゆかりのある30歳の男女16名からなる実行委員会を中心に、「市民や地域への感謝」をテーマとして、自主的にイベントの企画及び運営を行った。

〈内容〉

音楽ライブ、ダンス、オーケストラ、多種多様なブースの出演

時期	イベント	来場者数
H30.3	三十路式	300人

レトロヂ

「レトロな路地裏」をコンセプトとしたナメラ商店街の「レトロヂ」。昔懐かしい雰囲気の特徴。



時期	イベント	来場者数
H29.5	レトロヂ	7,000人

ナメラン

ナメラ商店街や三木城跡の周回コースを走り、三木の歴史や文化を体感するリレーマラソン「三木ナメラン」。



時期	イベント	参加者数
H29.11	ナメラン	230人

ハロウィン

たくさんの子どもたちが参加し、多世代がにぎわう緑が丘町の「緑が丘ハロウィン」。



時期	イベント	来場者数
H29.10	緑が丘ハロウィンストリート	4,000人

観光コンシェルジュ

観光スポットや食などについて地域のふれあい拠点のスタッフ等が広告塔として口コミでPR。

(H29年度の取組)

- ・施設等でパンフレットを設置。
- ・拠点スタッフ等へ観光情報を提供。



みつきいハイキング

三木市の歴史や文化に触れるとともに、美しい自然を満喫することができるハイキング。

(コース例)

御坂サイフォン・紅葉の伽耶院コース

- ・緑が丘駅～どっこいさん～志染の石室～御坂サイフォン～千体地蔵～伽耶院(解散)～緑が丘駅

※紅葉の伽耶院で、三木食づくりの会により名物販売(うどん、すし、ぜんざい等)。



【参加者数】	H27年度	・・・	760人
	H28年度	・・・	621人
	H29年度	・・・	553人

三木市観光ギャラリー

主要な観光施設に三木市をPRするブースを設置。H28年度には、ネスタリゾート神戸内にギャラリーを設置し、三木金物や日本酒などの市内特産品や観光地をPRし、観光客の市内周遊を促進。

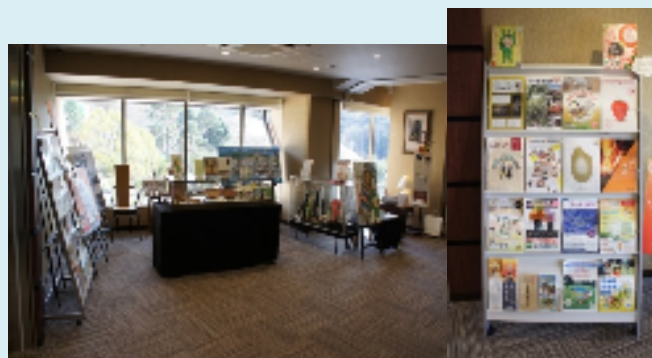
(H30年度)

常設・・・各種パンフレット、三木金物、
ハーブ商品、美吉籠、日本酒、
市内の作家による家具や玩具、
インスタグラム用写真撮影ツールなど

夏・・・夏祭り、観光ぶどう園

秋・・・紅葉スポット、金物まつり、
展示用の祭り屋台

冬・・・山田錦まつり、いちご農園



ネスタリゾート神戸 (H28.7オープン)

H28.7 ... ホテルリニューアル、グランピング、プール

H28.11 ... イルミネーション

H29.4 ... お花畑、天然温泉、エグゼクティブホテル、
スカイジャングル

H29.6 ... プール(スライダー)

H29.7 ... グランピング宿泊専用キャビン

H30.3 ... スポーツアクティビティ施設

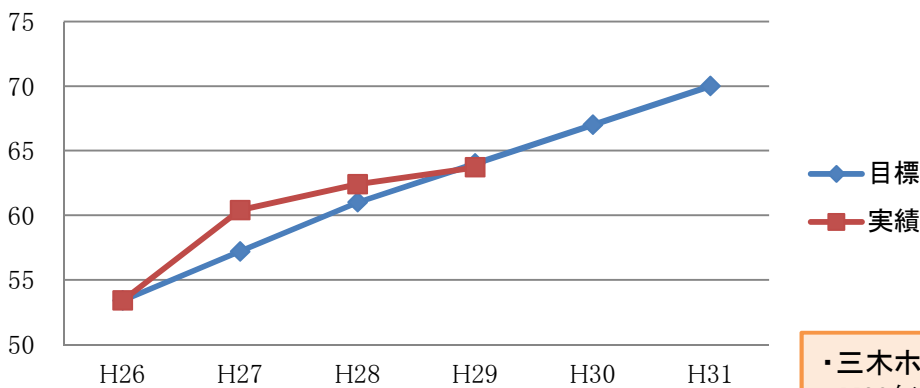
H30.6 ... プール(新スライダー)



市内観光施設利用者数

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30	H31年度
目標	—	57.2万人	61万人	64万人	67万人	70万人
実績	53.4万人 (H26)	60.4万人 (106%)	62.4万人 (102%)	63.7万人 (100%)		

市内観光施設利用者数(単位:万人)



KPI判定(H29年度)



コメント

利用者数は、ほぼ横這いであり、国体会場になるなどの特需により変動する。

・三木ホースランドパーク
H29年度は、愛媛国体の会場となったため、利用者が増加した。

【参考】市内観光施設利用者数の内訳

施設名	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
三木ホースランドパーク (研修センターの利用者数を除く)	202,753人	220,874人	238,177人	230,643人
道の駅みき	318,994人	370,421人	354,740人	377,373人
旧玉置家住宅	9,907人	9,457人	11,797人	9,899人
旧小河家別邸	2,651人	3,640人	2,372人※	4,977人
みき歴史資料館(H28.5開館)	—	—	16,996人	14,354人
合計	534,305人	604,392人	624,082人	637,246人

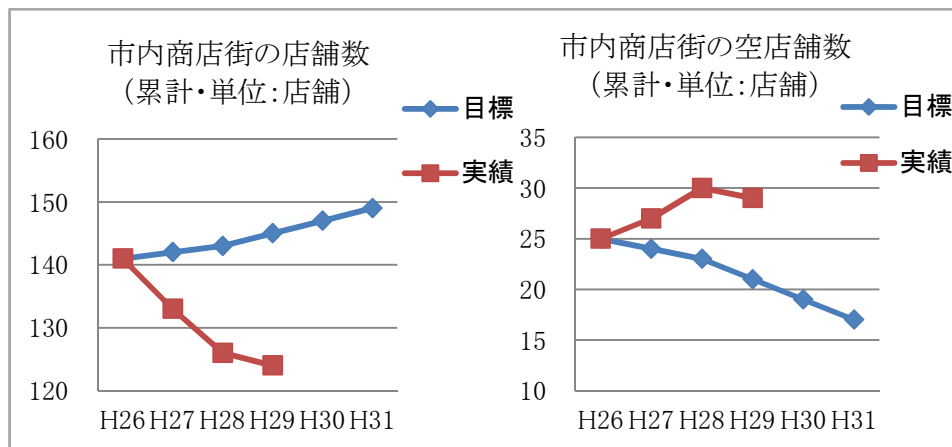
※旧小河家別邸は、H28.10月～H29.4月の期間中、建物の補強・改修工事のため休館。

・三木ホースランドパーク
H27年度は、和歌山国体の会場の一つとなったため、利用者数が増加した。
・道の駅みき
民間の観光バスツアーの積極的な誘致により、H27年度以降は観光バスの立ち寄り先となり利用者が増加した。

市内商店街の店舗数〈空き店舗数〉

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	142店舗 〈24店舗〉	143店舗 〈23店舗〉	145店舗 〈21店舗〉	147店舗 〈19店舗〉	149店舗 〈17店舗〉
実績	141店舗 〈25店舗〉 (H26)	133店舗 (94%) 〈27店舗〉 (87%)	126店舗 (88%) 〈30店舗〉 (70%)	124店舗 (86%) 〈29店舗〉 (62%)		

※市内商店街・・・ナメラ商店街、明盛商店街、プリンスロード商店街、大和名店街、サンロード商店街を指す。



KPI判定 (H29年度)

×

コメント

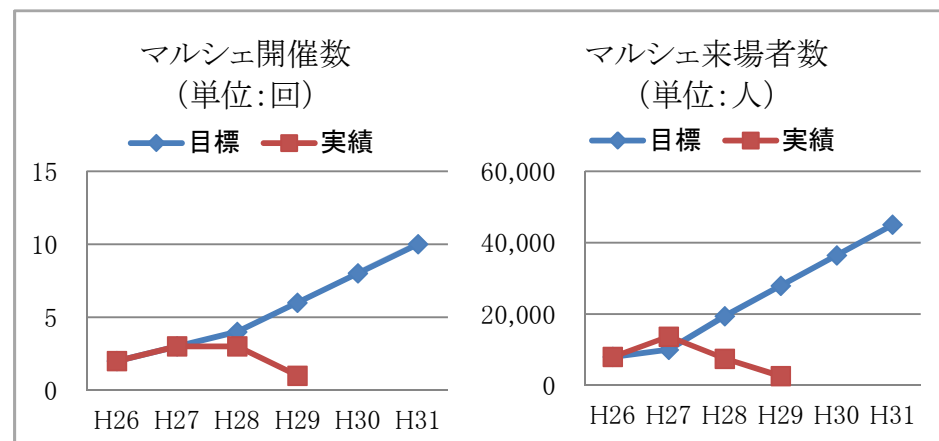
新規起業者が一定数いるものの、既存店舗が店主の高齢化等の理由などから廃業されることも多い。商店街店舗の活性化が課題。

マルシェ開催数・来場者数(再掲)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	3回 10,000人	4回 19,400人	6回 27,933人	8回 36,466人	10回 45,000人
実績	2回 8,000人 (H26)	3回 (100%) 13,700人 (137%)	3回 (75%) 7,480人 (39%)	1回 2,600人		

H28.5 明盛商店街 5,000人
H28.9 サンロード商店街※ 80人
H29.3 サンロード商店街 2,400人

※雨天のため大半の予定を中止



KPI判定 (H29年度)

×

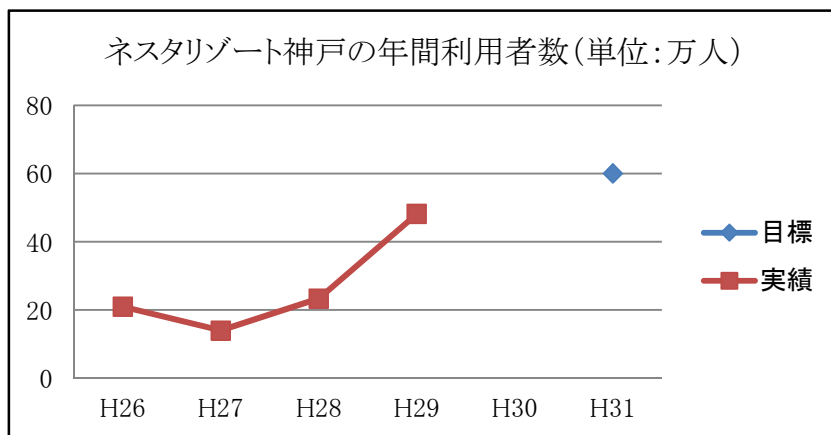
コメント

・天候に恵まれず、開催数、来場者数共に目標を大きく下回った。
・集客効果が低く、また、商店街からの協力も得られなくなったため、H30年度以降については事業を中止する。

ネスタリゾート神戸の利用者数

ネスタリゾート神戸が発表している初年度来場者数の目標は60万人(期間はH28.7月～H29.6月の1年間)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	—	—	—	—	60万人
実績	旧グリーンピア三木の 実績値 20.6万人 (H26)	13.8万人 (H27.12閉鎖)	H29年7月オープンのため実績として採用しない	48.2万人 (H30.3末)		



KPI判定(H29年度)

—

コメント

前年度と同程度の実績。
H30年11月に『北播磨
「農」と「食」の祭典』開催
による公民連携を予定。

地方創生加速化交付金(市内観光の推進による市街地活性化関係)の執行状況

(H28年度)

※執行額から対象外経費を除いた額

交付金対象事業	交付金充当額(実績)※
市内観光施設の連携	20,565千円
国史跡指定施設を活用した事業	7,623千円
歩く観光コンシェルジュの育成	1,184千円
別所ゆめ街道の活用に向けた花のあるまちづくり	3,508千円
合計	32,881千円

(1) 三木市生涯活躍のまちづくり事業

H29年度総事業費 : 5,894万円

国が提唱する「生涯活躍のまち」構想に基づき、高齢者と若い世代が共生していく新たなライフスタイルを市全体で進めていくなかで、まずは高齢化が進み、空き家が増加している緑が丘をモデルとして、まちの再生を推進する。

課題

- ・ 少子高齢化、若者の人口流出による、高齢化率の増加、空き家増加。
- ・ 多世代が共生できる新たなライフスタイルの構築。

取組方針

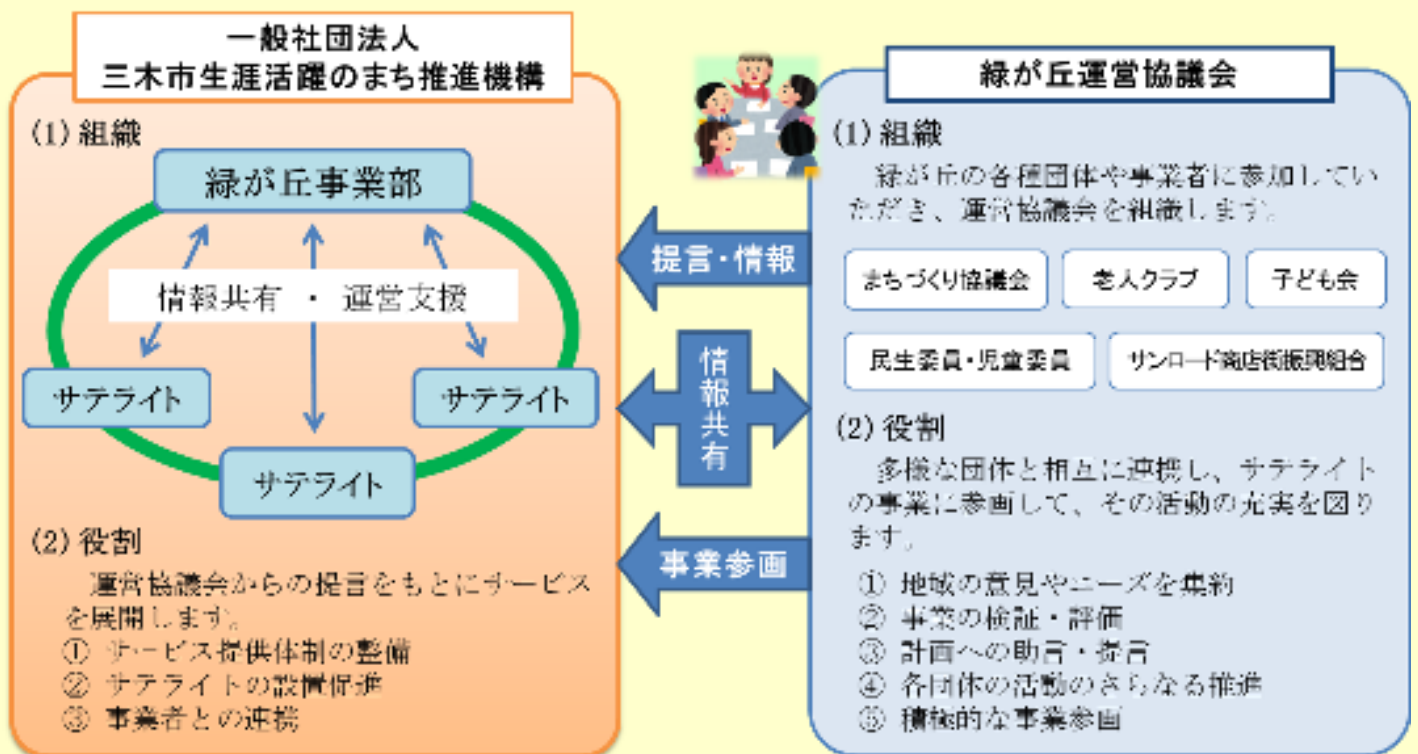
- ・ 集合住宅及び戸建住宅エリアのゾーニングによる住み替え促進や高齢者を中心にしたサービス展開ができるサテライトを設置。
- ・ 多世代が交流できるような場所の創出。

取組内容

- ・ 三木市では、国の構想に加え、市内での住み替え、若者・子育て世代の移住をも構想に取り入れ「多世代が共生する地域社会」を創り、人口バランスを整え、持続あるまちの発展につなげていくことが特徴。

事業イメージ

生涯活躍のまちの推進体制図（緑が丘地区）



H28年度の主な取組

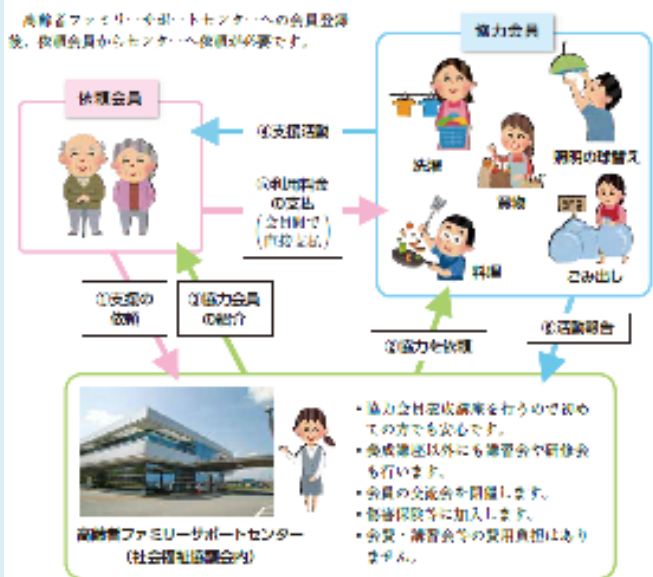
生涯活躍のまち推進機構の設置(H28新規)

多世代交流による豊かなまちづくりを推進するため、市、住民団体、民間事業者等で構成する（一社）三木市生涯活躍のまち推進機構をH29.3月に設立。地域団体との調整や事業を実施する拠点施設の準備を進めている。

高齢者ファミリーサポートセンター設置(H28新規)

地域住民が高齢者の日常生活を支援するネットワーク構築をめざし、H28.10月、高齢者ファミリーサポートセンターを社会福祉協議会内に設置。高齢者を手助けする協力会員(有償ボランティア)と依頼会員(高齢者)との調整を実施。

高齢者ファミリーサポートセンターの概要



24時間健康医療相談ダイヤル(H28新規)

H28.8月から健康に対する不安や病気・けがの対応に関する相談窓口を設置。24時間対応で、医師や看護師等の専門家によるアドバイスやカウンセリングを受けることが可能。

平成28年度実績(H28.8～H29.3)
相談件数 1,093件



三木市PR映像の作成(H28新規)

定住移住PR動画を製作。ケーブルテレビCMやシネアド（映画館CM）で放送。また、定住移住パンフレットも作成し、子育て施策を中心に、三木市の魅力をPR。



今回新たに誕生した「三木市定住・移住応援キャラクター」。
広報みきH29年3月号でネーミングを募集。
⇒「みきるん」に決定！（H29年4月）
応募総数402件

移住定住PR動画



市民130名がラッキィ池田氏振付のダンスで三木の明るさ、元気を表現。

- ・三木市公式YouTubeチャンネル
- ・市内観光施設及び各種移住関連イベント 等
- ・J:COMチャンネル CM(H28.12～H29.3)
- ・シネアド[神戸2館、大阪1館](H29.3)
- ・ミントビジョン(H29.8)で放映。

移住定住PRパンフレット

- ・市役所関係窓口課
- ・市内外の不動産会社、商業施設
- ・市内公共施設、観光施設などで設置・配布



H29年度の主な取組

生涯活躍のまち推進機構の活動支援(継続)

(一社)三木市生涯活躍のまち推進機構の拠点としてH29.4月に緑が丘事業部・みどりんを開設。併設する「サテライト」で気軽に立ち寄れる相談窓口や多世代の交流によるまちのにぎわいづくりを進めている。また、住民との意見交換の場として「運営協議会」を定期的に行うことで地域の課題・ニーズを把握し、地域に密着した取組を行っている。

サテライトを活用して交流イベントや住民との意見交換会を開催



高齢者ファミリーサポートセンター(継続)

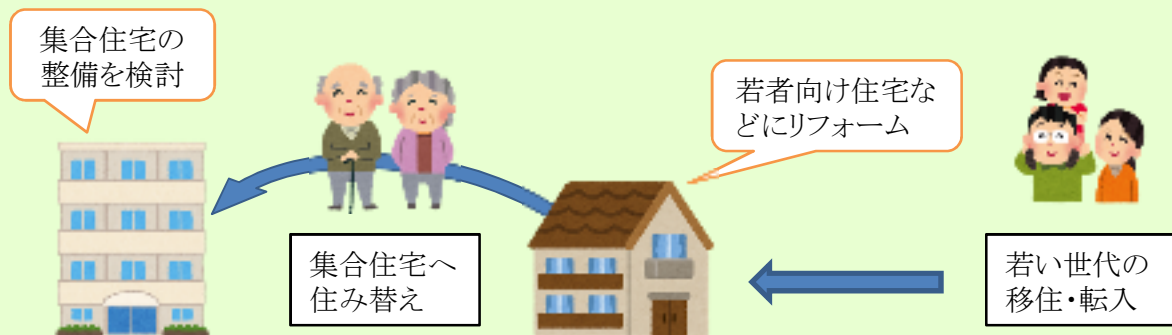
H28.10月に開設した高齢者ファミリーサポートセンターにおいて高齢者を手助けする協力会員(有償ボランティア)と依頼会員(高齢者)との調整を実施。さらなる事業の充実を図っている。

集合住宅の基本設計(H29新規)

神戸電鉄緑が丘駅西側に集合住宅を建設するという計画であったが、緑が丘地域内で増えた空き家、空き地を活用する施策の推進を優先すべきということから、事業を再検討することとなった。

再検討

集合住宅建設にかかる計画の概要



戸建住宅への移住世帯数

緑が丘地区における戸建住宅を対象に、H27年度の転出入の差を基準とし、増減幅を比較する目標値。

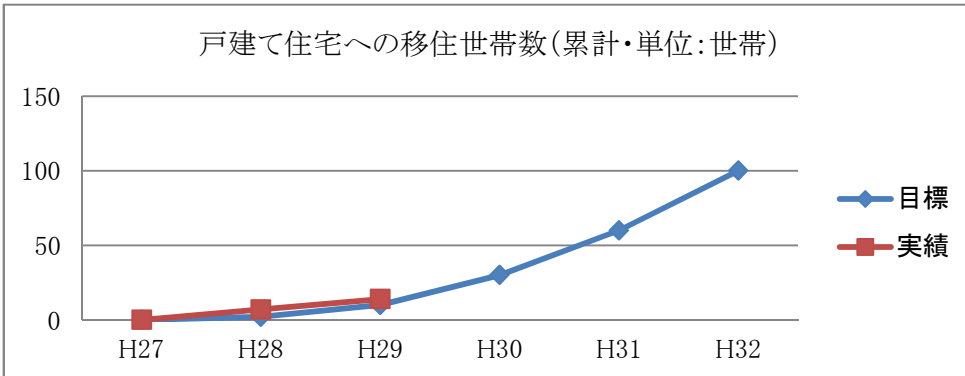
区分	目標設定の 起点(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
目標	—	2世帯 (転出入差 △25世帯)	10世帯 (転出入差 △17世帯)	30世帯 (転出入差 +3世帯)	60世帯 (転出入差 +33世帯)	100世帯 (転出入差 +73世帯)
実績	H27 (転出入差 △27世帯)	7世帯 (350%) (転出入差 △20世帯)	14世帯 (140%) (転出入差 △13世帯)			

※緑が丘地区への転入出世帯数(市民課アンケートによる集計)

H27年度 : 転入50世帯 / 転出77世帯 / 転出入差△27世帯

H28年度 : 転入49世帯 / 転出69世帯 / 転出入差△20世帯

H29年度 : 転入40世帯 / 転出53世帯 / 転出入差△13世帯



KPI判定(H29年度)



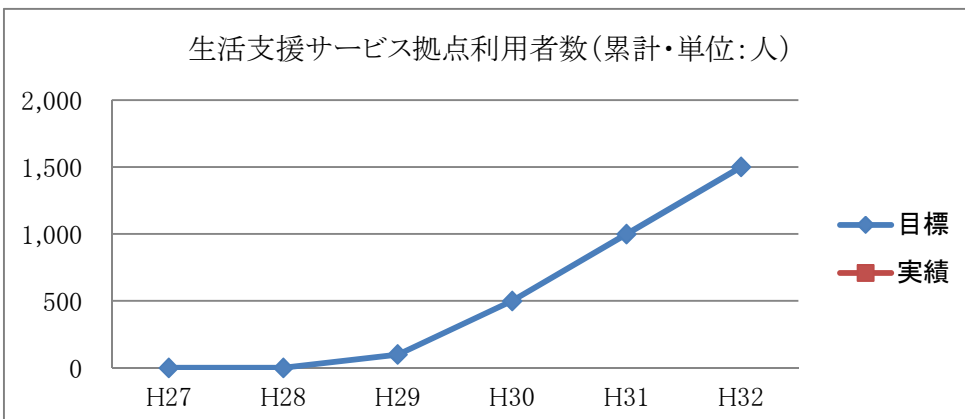
コメント

前年度より転入世帯が減少したが、転出世帯の減少が上回ったため、転出超過が改善された。

生活支援サービス拠点利用者数(累計)

緑が丘に設置予定の生活支援サービス拠点の利用者数

区分	目標設定の 起点(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
目標	—	—	100人	500人	1,000人	1,500人
実績	—	—	678人※	※開設日(H29.5.22)から7月末までの延べ利用者数		



KPI判定(H29年度)

—

コメント

検証年度の実績値が確定していないため、次回以降効果検証を実施。

整備集合住宅への移住世帯数

再検討

緑が丘駅前に整備予定の集合住宅
に住み替えした高齢者の世帯数。

区分	目標設定の 起点(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
目標	—	—	—	—	50世帯	100世帯
実績	—	—	—			

※現時点では実績がないため、グラフ表記を省略。

地方創生推進交付金(三木市生涯活躍のまちづくり事業)の執行状況

(H29年度)

※交付金充当額は執行額から対象外経費を除いた額の1/2

交付金対象事業	交付金充当額(実績)※
緑が丘町・青山まちづくりビジョン委員会の活動支援	0千円
地域住民が主体となってまちづくりについて協議する「まちづくりビジョン委員会」の活動を支援。なお、推進機構の設立に伴い、緑が丘町まちづくりビジョン委員会は活動を終了した。	
生涯活躍のまち推進機構への運営補助金	1,860千円
22ページ参照	
24時間健康医療相談ダイヤル	2,576千円
22ページ参照	
高齢者ファミリーサポートセンター	4,250千円
22ページ参照	
成年後見支援センター	5,500千円
H27.10月に開設した「成年後見支援センター」において成年後見制度の利用を支援。高齢化の進行により今後ますます同制度への関心の高まりが予想されるため事業のPRを継続していく。	
多世代交流イベント	7,000千円
みっきい夏まつり、さんさんまつりを開催。市内外から多くの来場があり、まちの活性化に寄与した。また、子どもからお年寄りまで皆が楽しく過ごせる交流の契機として大いににぎわいを見せた。	
三木市PR事業	226千円
22ページ参照	
緑が丘地区の道路整備	8,061千円
地区内の歩道の段差解消、バリアフリー化により住民が安心・安全に生活するための整備を進めている。	

合計 29,472千円

(2) ゴルフを核としたまちの活性化

H29年度総事業費：1,115万円

西日本一ゴルフ場が多い三木市の特徴を活かした事業を展開し、「ゴルフのまち三木」を広くPRするとともに、ゴルフ産業を振興し、まちの活性化につなげる。

課題

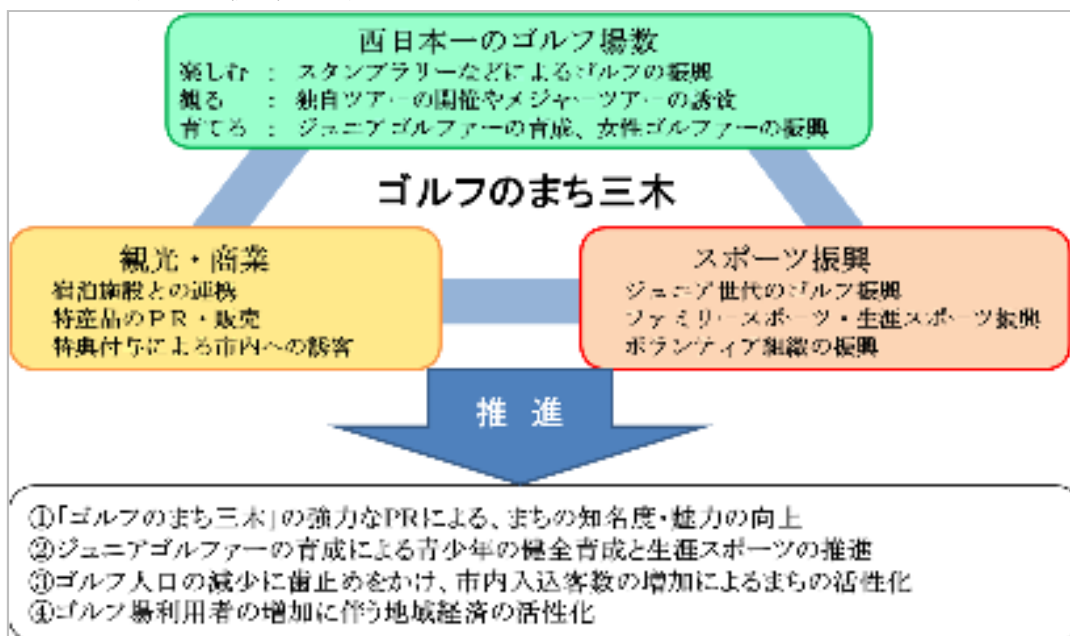
- ・ レジャーの多様化や高齢化に伴い、ゴルフ人口が減少しており利用者の維持、増加が必要。
- ・ ゴルフ場利用者を市内の観光・商業施設へと誘導できていないため、ゴルフ場を活用した市内周遊が必要。
- ・ ゴルフ人口の裾野を広げるとともに、ゴルフのまちをPRするため、子どもを中心としたゴルファー育成が必要。

取組方針

- ・ ゴルフトーナメント開催によるゴルフ振興
- ・ スタンプラリーを活用したゴルフ場の利用促進及び地域活性化
- ・ ゴルフ体験やゴルフ教室開催によるジュニア育成

取組内容

- ・ レディースゴルフトーナメントの開催
- ・ スタンプラリーの開催
- ・ ゴルフ教室やスナッグゴルフ大会の開催
- ・ インバウンド戦略の推進



関連内容

ふるさと納税体験型返礼品によるまちの活性化

年度	協賛ゴルフ場	返礼品送付数
H27年度	3	1,974セット
H28年度	5	4,560セット
H29年度	5	6,371セット



レディースゴルフトーナメント開催(H28～)

(H29年度)

- ・H29年7月、第2回三木市レディースゴルフトーナメントを開催。
- ・110人の選手が参加。ギャラリーは大会2日間で580人。ボランティア65人が大会運営に参加。
- ・優勝者には賞金のほか、三木市産キヌヒカリを贈呈。



(H30年度)

- ・H30年7月、第3回三木市レディースゴルフトーナメントを開催。
- ・105人の選手が参加。ギャラリーは大会2日間で440人。ボランティア62人が大会運営に参加。
- ・優勝者には賞金のほか、三木市産キヌヒカリを贈呈。

10,000人コンペ(H29～)

H30年については4月～9月まで毎月1回(合計6回)市内25カ所のゴルフ場で10,000人コンペを一斉に実施。各月の優勝者1名、各月女性最上位者1名、各月飛び賞(100位、200位、300位)3名、計30名を名門コース廣野ゴルフ倶楽部での決勝大会に招待。

インバウンド戦略の推進(H30～)

国内のゴルフ人口減少に伴い、市内のゴルフ場利用者数は減少傾向にある。その対策として、西日本一のゴルフ場数という強みと三木市の地域資源を活かし、ゴルフをメインとしたパッケージツアーを企画し、海外からの誘客に向けた取組を行う。

ジュニアゴルファーの育成

子どもを中心にゴルフ教室やスナッグゴルフ大会を開催。ゴルフのまちとして、ゴルファーの育成を実施。



スナッグゴルフとは、テニスボールに似た球をプラスチック製のクラブで打つ競技。三木市では全小学校に道具一式を配布している。

スタンプラリー開催(H28～)

(H29年度)

H28年度の内容に加え、20スタンプ以上達成者の中から抽選で5名様にゴルフ場利用権を贈呈。



(H30年度)

H30年度から、ゴルフ場利用券の抽選対象を15スタンプ以上達成者に拡大。

インバウンド戦略の推進

三木創生を進めていくに当たり、今後、加速度的に進む人口減少やグローバル化に対応した新たな仕組み及び戦略が必要になる。現在、2016年の訪日外国人観光客数2,403万人に対し、2020年に4,000万人、2030年には6,000万人を目標とするなど国においても「観光先進国」をめざす動きがある。そこで三木市においても、地域資源と魅力を世界に発信し、需要やニーズを把握しながら、外国人に対する受入れ体制の構築を図るなど時代に即した新たな挑戦を進める。

PR戦略の推進

SNSの「Facebook」で日本に興味のある約350万人のフォロワーを持つ「Japan OLD」を運営している東京のIT企業と連携協定を締結し、三木市の発信をしている。フォロワーが、どのような記事に関心を集めたかについて分析し、外国人のニーズ把握も行っている。

実績:21記事投稿

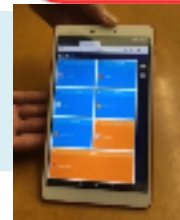
いいね数合計約17,200

(H29年12月27日からH30年8月末)



おもてなし戦略の展開

QR決済を進める東京のIT企業と連携し、7か国語のテレビ通話通訳、QRコード決済など外国人観光客の利便性を向上させることが可能となるタブレット端末を、庁舎内に4台設置し市内在住の外国人への対応に使用を開始している。また、PR戦略により三木市に興味を持ち、来日された訪日外国人に対するおもてなし戦略として、市内観光施設や宿泊施設などの民間事業者と協力していただき設置している。



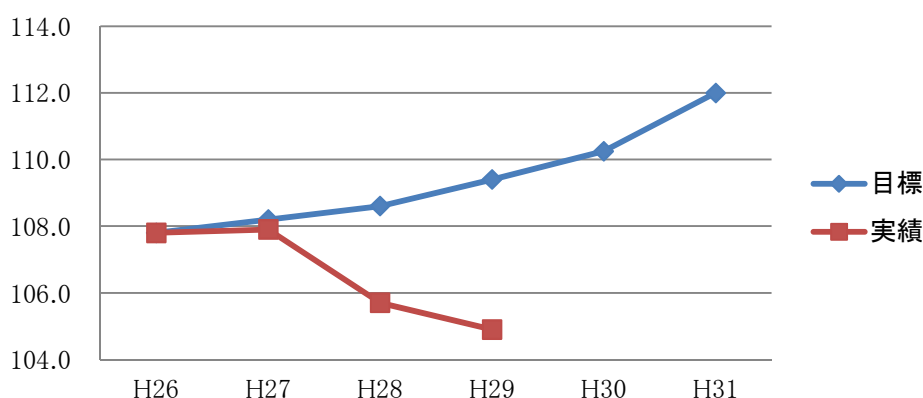
インバウンド戦略の推進

今後は、参加していただく事業者数が増加したのち、各施設を繋ぐパッケージを旅行代理店に商品として販売していただくことで、外貨を稼ぐ仕組みづくりにチャレンジします。

ゴルフ場利用者数(プレイヤー数)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	108.2万人	108.6万人	109.4万人	110.25万人	112万人
実績	107.8万人 (H26)	107.9万人 (100%)	105.7万人 (97%)	104.9万人 (96%)		

ゴルフ場利用者数(プレイヤー) (単位:万人)



KPI判定 (H29年度)

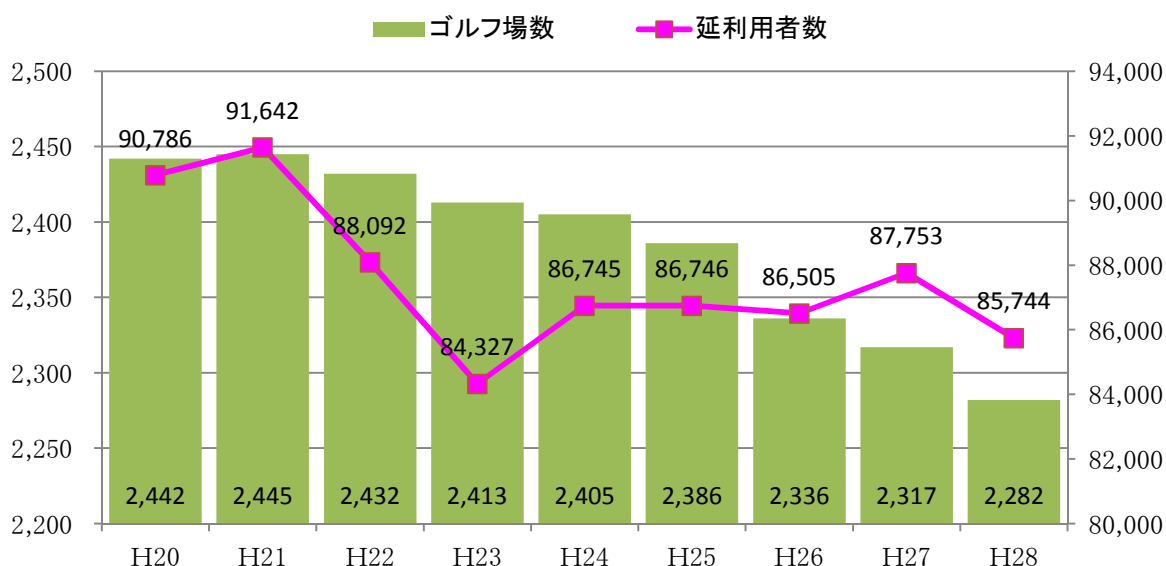


コメント

現在、全国的にゴルフ人口が減少していることに加え、H27年8月に発生した地すべりの影響で修復を余儀なくされたゴルフ場があったため。

参考

【全国】ゴルフ場数・延利用者数の推移
(単位:か所[ゴルフ場数]、千人[延利用者数])

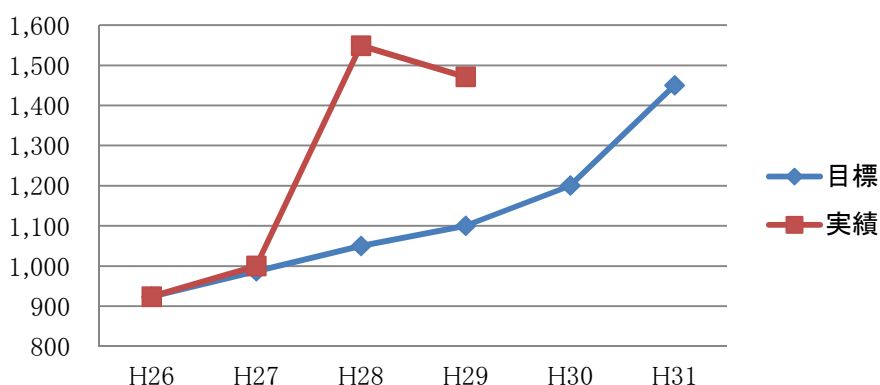


(出典) 一般社団法人 日本ゴルフ場経営者協会
「利用税の課税状況からみたゴルフ場数、延利用者数、利用税額等の推移」

ジュニア育成のゴルフ教室及びスナッグゴルフ大会参加者数

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	987人	1,050人	1,100人	1,200人	1,450人
実績	924人 (H26)	1,000人 (101%)	1,549人 (148%)	1,471人 (134%)		

ジュニア育成のゴルフ教室及びスナッグゴルフ大会参加者数(単位:人)



KPI判定 (H29年度)



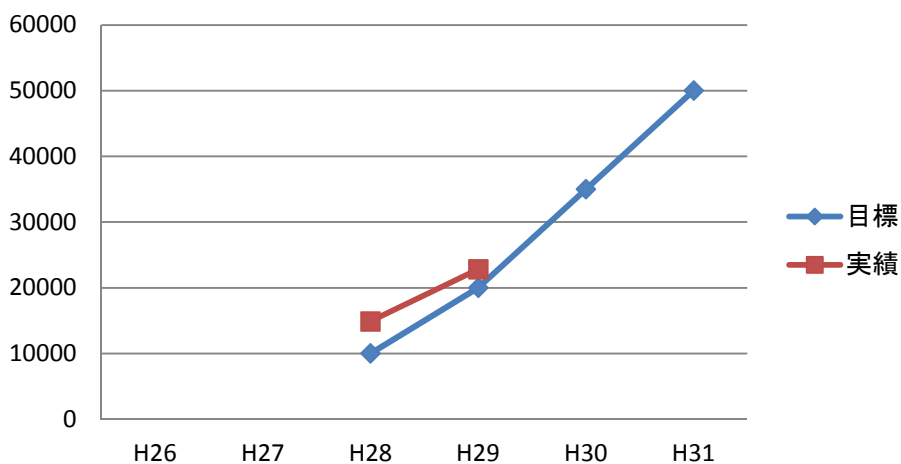
コメント

参考目標値に対し
134%と、高い水準を
保っている。

スタンプラリー参加者数(延べ)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度 (H28.4~9)	H29年度 (H29.4~9)	H30年度	H31年度
目標	—	—	10,000人	20,000人	35,000人	50,000人
実績	—	—	14,912人 (149%)	22,821人 (114%)		

スタンプラリー参加者数(単位:人)



KPI判定 (H29年度)



コメント

ゴルフ場利用者の他
市町への流出抑制の
一助につながっていると
考えられる。

地方創生推進交付金(ゴルフを核としたまちの活性化)の執行状況

(H29年度)

※交付金充当額は執行額から対象外経費を除いた額の1/2

交付金対象事業	交付金充当額(実績)※
スタンプラリー	5,000千円
ジュニア育成	573千円
	合計 5,573千円

「新たな三木ブランドづくり」への挑戦

H29年度総事業費 : 5,000万円

これまで、市が地域の活性化のため整備を進めてきた「別所ゆめ街道」に、集客が見込める核となる店舗(当初はカフェテラスを想定)を建設するとともに、「若者」や「女性」が訪れたい魅力づくりを進め、新たな三木ブランドとして全国に発信する。

課題

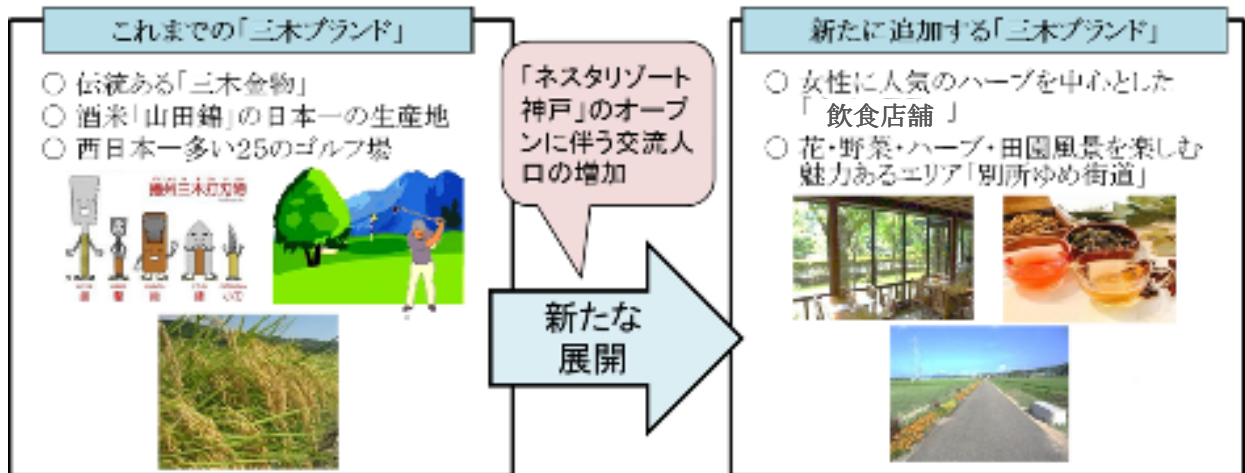
- ・三木市の新たなブランドづくり
- ・ハーブ産業を活用したまちの魅力づくりと市内周遊の誘引

取組方針

- ・集客力のある飲食店の誘致
- ・隣接するハーブ工房との連携強化によるハーブ産業の推進
- ・新たな店舗での三木産農産物の魅力発信
- ・遊歩道を活用した回遊性の向上

取組内容

新たなブランドづくりのイメージ



別所ゆめ街道

H20.4月に三木駅から厄神駅(加古川市)を結んでいた三木鉄道が廃線となりました。そこで、「かつて三木鉄道がまち、人を繋げてきたように、市内外の人々の交流を促進し、訪れる人々を市民の皆様とおもてなしの心で迎える。」をコンセプトに、三木の西の玄関である別所地域の活性化にむけ、線路跡地を別所ゆめ街道として整備を進めています。

- ・三木鉄道記念公園 (H22.6月)
- ・石野・別所休憩所 (H24.8月)
- ・遊歩道[4.6km] (H22～H29.10月)
- ・飲食店舗 (H30.3月完成) など



ブランド発信拠点となる飲食店舗の整備

別所ゆめ街道への集客の核となる飲食店舗の「いなみころ三木別所店」を開店した。同店は年間12万人もの集客を誇るうどん料理店「いなみ有限会社」が運営している。

また、隣接するハーブ工房「株式会社みきヴェルデ」とのコラボメニューとして、みきヴェルデで栽培されたレモングラスを使った「トムヤムクン風うどんめし」の販売を行っている。

ハーブ産業化の推進

ハーブ産業の推進に取り組む「株式会社みきヴェルデ」と連携し、加工品を観光施設や物産店でPRするとともに、ふるさと納税の記念品として出品している。



別所ゆめ街道の魅力アップ

田園風景に囲まれた約4.6kmにも及ぶ遊歩道を整備し、H30年3月に全線開通。

魅力アップに向けて、花木を植栽しているほか、旧駅を整備し、休憩所として活用するなど、利便性の向上も進めている。



観光スポット間の回遊性向上

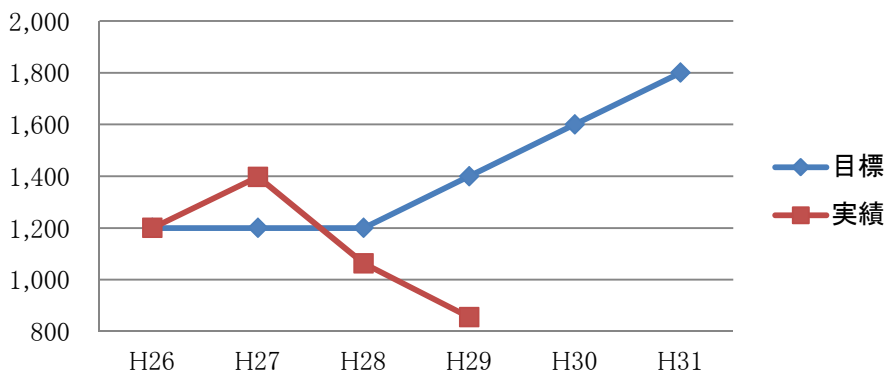
別所ゆめ街道を軸に、飲食店舗、三木鉄道記念公園、正法寺展望台などの周辺の観光スポットをはじめ、市内の観光施設をつなぐことで、周遊性の向上を図る。



ハーブ産業化による販売額(再掲)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	1,200万円	1,200万円	1,400万円	1,600万円	1,800万円
実績	1,200万円 (H26)	1,397万円 (116%)	1,063万円 (89%)	855万円 (61%)		

ハーブ産業化推進による販売額(単位:万円)



KPI判定(H29年度)

×

コメント

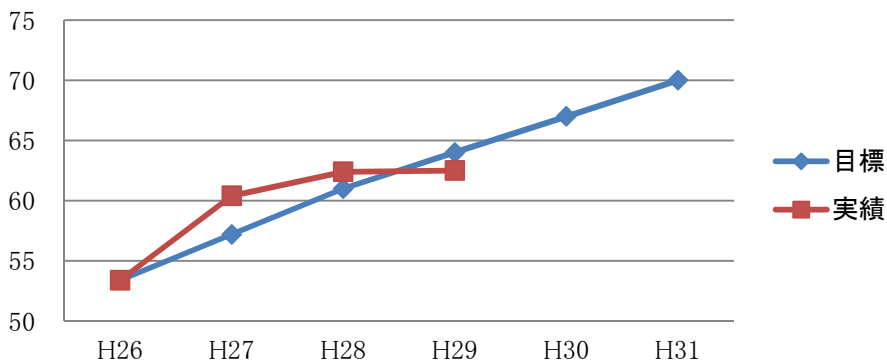
みきヴェルデの運営する店舗が閉店したため、販売額が減少した。

市内観光施設利用者数(再掲)

区分	目標設定の 起点(実績)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
目標	—	57.2万人	61万人	64万人	67万人	70万人
実績	53.4万人 (H26)	60.4万人 (106%)	62.4万人 (102%)	63.7万人 (100%)		

※市内観光施設・・・三木ホースランドパーク、道の駅みき、旧玉置家住宅、旧小河家別邸、みき歴史資料館を指す。

市内観光施設利用者数(単位:万人)



KPI判定(H29年度)

○

コメント

利用者数は、ほぼ横這いであり、国体会場になるなどの特需により変動する。

別所ゆめ街道飲食物産館(核となる飲食店舗)の販売額

区分	目標設定の 起点(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
目標	—	—	—	3,000万円	3,000万円	3,000万円
実績	—	—	—			

※現時点では実績がないため、グラフ表記及び判定・コメント欄を省略。